

## 研究所だより

榎本 木綿

立春過ぎてなお、寒い日が続きます。先日、滋賀県高島で農業ネットワーク会議（労協連委託研究）を開催した折、地元でも何十年振りかと騒がれたほどの大雪の日に遭遇しました。会議は早めに切り上げたものの既に70cmまで降り積もった雪の影響で公共交通機関はすべてストップ。自家用車も大渋滞し雪の中で立ち往生。あわやこのままレスキュー待ちでは…と少々青くなるなか、なんとか無事に帰京できました。その名の通り農業に関する会議でしたが、自然の猛威の前に人間の無力さを改めて思い知らされた出来事でした。



雪に不慣れな都会もん(?)の一行

帰京する途中、大阪の「関西よつ葉連絡会」とその研究機関で総研会員の「地域・アソシエーション研究所」を訪問し、よつ葉会の関連する協同農場などを見学させて頂きました。

関西よつ葉連絡会についてはご存知の方も多いと思います。およそ三十数年前、北海道のよつ葉牛乳の購買運動から始まり、



創立当初のキャッチフレーズ  
「落ちこぼれ者が楽しく暮らす能勢農場」

有機農業運動と食品公害に関する消費者運動を関西で展開し、安全な食品や生活用品の生産・販売・配送等を主に行っています。今回視察させていただいた能勢農場（畜産）などの他にも、農業、食品加工、クリーンサービス、システム事業、自動車整備工場など幅広く関連する多数の事業団体が連帯し、形成されています。

豊能の山間地に位置する能勢農場では、よつ葉の肉牛の畜産を行っており、仔牛から成牛までを一貫飼育し、大切な生命として一頭一頭に合わせた飼育をしています。飼料も地域農家から稲わらを提供してもらい、そのお礼に牛フンを畑の肥料として撒くことで地域内で資源を循環し、相互に助け合っていることが伺えました。また、よつ葉では生産と流通と販売を分断せず、でき得る限り生産者と消費者の顔が見える関係から安全と信頼を築いてきており、同じ敷地内にはなんと、食肉の枝肉や部分肉に

解体加工する食肉センターもあるほど徹底しています。生命をモノとして扱い、効率・工業化を重視してきた今の畜産業が抱えるBSEや食品偽装といった問題とは無縁の場所です。このほかにも移動型こども動物園や協同農場、Iターンの為の農業塾など一次産業に携わる事業者が複数同居し、そこで働く人たちが用に自治運営する共同宿舎も併設されています。

いまでこそ会員数も4万人にまで伸びたようですが、生命に直結する「食の安全」という視点から、地域で生産者と消費者が長年積み重ねてきた信頼が強固なつながりを育み、たとえ小さな組織集団であろうともいくつもの厳しい情勢のなかで支え合ってきたことが伺え、とても示唆に富む訪問となりました。

今号では2012国際協同組合年を記念し、協同組合を中心にこれからの協同・連帯社会の創造へ向けた期待と自覚の念を込め、特集を組みました。来月にはあの東日本大震災・福島第一原発事故から一年が経とうとしていますが、いまだその復興への困難は危機として被災地に立ちはだかっています。この危機に向け、事故と災害を風化させず、現地の人たちとともにあることを示し、地域の人たち自身による地域社会の復興を支えることを協同組合同士が連携し、協同することで乗り越えていけるのではないのでしょうか。

今年、2012年の国際協同組合年は協同組合の、そして私たち協同組合人の真価が試される年だと思えます。

#### お悔やみ

協同総研創設期より長年に渡り多大なご尽力をいただきました 山岡 英也 会員（元農林中金総合研究所）が、去る2012年1月6日、ご逝去されました。

謹んでここにご冥福をお祈り申し上げますとともに長年のご支援、ご協力に心より感謝を申し上げます。合掌。

協同総研一同

### 新入会員 (2012.1.1 ~ 1.31)

個人会員(敬称略)

藤原 宏幸(大阪市立大学大学院経済学研究科教授、関心:社会的企業、社会的排除・包摂、労働経済論、福祉経済論)

森 光弘(ぎふ「協同労働の協同組合」勉強会、関心:現在、岐阜市域で協同労働の協同組合勉強会を不定期に開催)